

日本聖公会

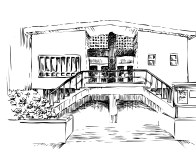
大阪教区報



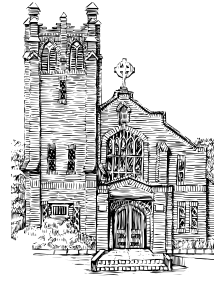
大阪聖パウロ教会



大阪聖アンデレ教会



旧大阪聖三一教会



主教座聖堂 川口基督教会

日本聖公会
大阪教区総務局

〒545-0053

大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8

TEL 06-6621-2179

FAX 06-6621-3097

osakakoho2022@gmail.com

発行責任者

総務局長 司祭 柳 時京

+++++ 第519号 2024年6月20日発行 +++++

たとえ死の陰の谷を歩んでも

司祭 マルチン 韓相敦

「たとえ死の陰の谷を歩んでも／わたしは災いを恐れない。」(詩編23:4)

わたしの定年にはまだ5年くらい残っているが、大韓聖公会の法規に従って本年度2月に定年退職をすることにしました。それは体が万全ではないからだ。2016年のある日癌と診断を受けた時、上手く治療ができたが、死が近づいて来たと思つた。その後、

ほかの所にも癌が見つかり、今も体に癌があり、共に生きている。この状態であるうちに「たとえ死の陰の谷を歩んでも／わたしは災いを恐れない。」(詩編23:4)という言葉の意味が特別に心に響いている。詩編23編は神様を羊飼いと

描写することで始まっている。パレスチナの地は肥沃な草原ではない。それで、羊たちが食べる草は、あまり多くない。また荒れ野には、水も少ない。そのような不毛な地で羊が生きて行くことは、一



日一日が生存のため労苦の生活の連続だということだろう。しかも、羊にとってさらに厳しいことは、いつオオカミなどが襲いかかってくるかと不安な状態である。そのような羊の立場に必ず必要なのは、まさに羊飼いだ。知識

と経験がある羊飼いは、羊たちを草と水があるところへ導いて、猛々しい動物から守ってくれる。

ダビデは少年の頃は羊飼いであった。羊飼いを経験したダビデは、自分の人生が危険と苦難に取り囲まれている私たちの生きる姿と同じであると思つたようだ。

ダビデは一生の間に、命を脅かす危険がともなう厳しい環境で生きていた。羊飼いであった少年の時には、羊を守るために熊と獅子と戦つたし、特にペリシテ軍との戦いでゴリアトに

勝つた後、サウル王の將軍になつて、いつも危険な戦場でいた。また戦場で手柄を立てると、サウル王の嫉妬と狂気の殺意から逃れるために、ダビデは大変な逃亡生活を送つた。王になつても戦争は続いたし、長男の反逆によってまた自分の命を守るために避難しなければならなかった。

ダビデの人生は常に苦難と危険の連続だった。けれども、

まるで羊飼いが羊を守つて導いたように、ダビデも神様の守りと導きの中にあつたことを悟つたことができたのだ。ダビデが歩んだ道は、いつも「死の陰の谷」だった。

そのようなダビデが「主はわたしの牧者、わたしは乏しいことがない」と歌うことができたのは、彼が死の陰の谷へ行って見たからだと思う。彼がどんなに絶望的な状況でも、神様はいつも正しい道へ導かれ、守つてくださった。その故に彼は、神様は「わたしの魂を生き返らせてくださる」と賛美することができたわけだ。

神様はわたしの羊飼いだということに認め、神様の導きに従うなら、荒れ野のようなこの世の中で神様はわたしを緑の牧場に伏させ／憩いの水の水辺に伴われる、わたしの羊飼いになると思う。たとえわたしが「死の陰の谷を歩んでも」、わたしの生涯に神様がわたしと共に居てくださるから、わたしの杯は満ち溢れる。

(尼崎聖マテオ教会嘱託司祭)

キッズフェスティバル
イエスさまと一緒になら
へレナ 斎藤 みち

4月29日(月・休) 大阪教区キッズフェスティバルには、子ども56人、保護者スタッフ合わせて総勢125人が川口基督教会に集められました。テーマは「イエス様が一緒になら」ルカ8章22節「嵐を静めたイエスさま」の箇所です。イエス様は起き上がり、嵐と荒波を叱り、嵐が静まったという出来事から、どんなことがあってもイエス様と共に歩むというメッセージが語られました。

参加する子どもたちはもちろんですが、引率の保護者も、高校生や青年のスタッフも含まれた企画者側も、皆が楽しみ、締めくくりの礼拝後、本当に神様との時間に満足するという点です。

私は幾人かのスタッフに注



工作コーナーでお土産作り

「工作や遊び、そして締めくくりの礼拝とスタッフの工夫と準備がなされたフェスティバルは、大変楽しく、喜びいっぱいの日でした。キッズフェスティバルの素晴らしいところは、準備の段階からテーマとなる聖書のメッセージをスタッフがしっかりと受けとめて、語られていることを自分たちなりに読み取り、具体的な視聴覚に表現する点です。もう一つ大切な点は、

目していたのですが、その方々が礼拝の間、ずっと最高の笑顔でおられたのを見たとき、キッズフェスティバルの目的は子どもたちへの信仰継承と神様の愛を伝えることなのだけけれど、スタッフ自身の霊的な癒しと励ましがここに

は確かにある、と今回改めて実感しました。

年齢や見た目、生活状況やこれまでの背景など、キッズフェスティバルという集いだけでも様々な子ども、大人たちが一つの所に集まります。けれど、共通していることは神様に集められ、そこで皆が神様に心を向けていくこと、また理解や馴染み方の大きさは違うかもしれませんが、皆が同じ霊的な食べ物(み言葉)を分かち合うことです。このような群れのところに、神様は望みを置かれ、大きく喜ばれるのだと思います。

何があっても、誰一人あなたを顧みてくれなくても、神様は決して見捨てない。苦しくて、しんどくて、どうしようもないとなったとき、この神様の愛に留まりなさい。まずは、一人、腰を下ろして、神様の愛にどっぷりとつかうように休憩しなさい。あなたは神様にとって、とても大切な存在なのだから、私の愛もまた、深く大きいから安心していなさいと、イエス様は今日も語られているのではないのでしょうか。

(石橋聖トマス教会信徒)

大阪教区婦人会昇天日礼拝婦人会第100回総会
エステル 加納 佳世子

5月9日(木) 午前10時30分より大阪教区婦人会昇天日礼拝が川口基督教会にて執り行われました。司式はテモテ内田望司祭、説教はアモス金頭昇司祭で出席は教役者10人を含む116人でした。金司祭は、いきなり自分のために拍手をしたことがありますが、頑張ってきた自分のために拍手をしましょう、から説教がはじまりました。

サクラメント、聖奠は、目には見えない神様の恵みを目に見える形にして伝えることです。拍手は、目には見えない感謝、祝福、応援、慰め、励ましを目に見える、また耳に聞こえる音として伝えられます。

今日イエス様は、天に昇られました。イエス様は目には見えない恵みを目に見える形にして伝えることです。拍手は、目には見えない感謝、祝福、応援、慰め、励ましを目に見える、また耳に聞こえる音として伝えられます。

午後からは、記念すべき第100回の総会が85人の出席により開催され、各部の活動報告、会計報告が行われ提出議案はすべて承認されました。

代祷の中でこの一年間に天に召された29人の姉妹の名前が読み上げられ、魂の平安をお祈りしました。当日の信施金131,560円は、管区を通じて能登半島地震のために献げられました。

私もいつも空を見上げてイエス様のことを覚えると思います。



説教者の金 頭昇司祭

ブラジルから一時帰国されていた玉置幸子執事がブラジルで広めてこられた体操を紹介してくださる、拍手をしたり、もとちよっと違った

昇天日になりました。

その後会長、副会長の任命式が執り行われ、辻節子会長（石橋聖トマス教会）には1970年にオリンピック教区から送られたメダルが引き継がれ、新会長のもと3年間の代表者会の働きが始まりました。総会后、6教会によるバザーが開催され、茶菓をいただきながら和やかに交わりの時を持つことができ、ご準備いただきました川口基督教教会のみなさま有難うございました。

私たちが鈴木久美子会長（恵我ノ荘聖マタイ教会）のもと、多くの方々の助けとお祈りの中で3年間の代表者会を無事に終えることができ感謝いたします。

（前大阪教区婦人会副会長
大阪聖アンデレ教会信徒）



新会長と新役員集合写真

ペンテコステヴィジル — 聖霊降臨日前夕の祈り —

ミリアム 増山 悦子

全国各地で最高気温が30℃を超える真夏日となった5月18日(土)、午後5時から日本基督教団・東梅田教会にて第16回ペンテコステヴィジルの礼拝が行われました。同教団と日本福音ルーテル教会、カトリック、日本聖公会の4つの教派が一同に会し、毎年ペンテコステ前夕の礼拝をお献げしています。

広々とした聖堂前面の左右に風にほのかに揺れる色とりどりの鳩のオブジェが飾られ、聖霊が会衆を包み込んでいたかのよう演出がなされていました。

日本福音ルーテル天王寺教会の竹田大地牧師がお説教をされましたが、まず自己紹介的にご自身について語られました。先生はそもそもお父様が牧師で、小学生までは素直に毎主日礼拝にも出席されていたようですが、やがて反抗心が芽生えて中学校から大学までは親から離れるために東京の学校へ進学し、教会へは全く通わず寮生活を送られた



そうです。そんな中、牧師であるお父様を尊敬しているという方に出会い、神学院に入る決意をされました。しかしそのためには教会の推薦が必要で、牧師であるお父様に願ったところ「バカ言うな」と怒鳴りつけられたとか。そこで条件を出され、それは片道2時間かかる教会へ朝8時に出向いて礼拝前に園庭を掃き、週報を印刷するという生活を1年間続けるというものでした。それをクリアし、無事聖職者となって13年になら



去る5月19日(日)、聖霊降臨日に大阪城南キリスト教会にて創立130周年記念礼拝をおささげいたしました。ご列席くださった方、心に留めてくだ

大阪城南キリスト教会創立130周年記念礼拝 司祭 フランチェスコ 成岡 宏晃

れるとの事でした。現在は、30〜40人の信徒の群れにあって皆それぞれ全く異なる人間でありながら、1つになって祈る事の素晴らしさを日々噛み締めていらつしやるそうです。

唱えている、その繋がりを深く感じていると話されました。私たちも聖霊の働きによって、主にあつて一つとなる事の大切さを改めて考えさせられる礼拝でした。出席者は28人、献金20,443円は「能登半島地震被災者救援募金」に献げられます。
（川口基督教教会信徒）

加えて来年はニケア信経の誕生から丁度1700年になるとの事で、使徒信経と合わせて教派を超えて同じ祈りを

さつた方に感謝を申し上げます。山本眞司祭の説教によってその場にいる一人ひとりが聖霊の息吹を感じ、それぞれの場へと遣わされたことはこの上ない喜びでした。以下、山本司祭の説教の一部をご紹介します。

「わたしは1999年に、城南から大阪聖アンデレ教会・桃山学院高校へと異動となったのですが、大阪教区にとって激動の時期だったと言えるでしょう。働き盛りの聖職たちが退職したり、他教区に移動したり、苦しい時でした。今、すこし落ち着いたと言え

聖職不足が、そして信徒不足が、大阪だけでなく日本聖公会全体で言われています。そんな中なのですが、大阪城南教会の新しい働きのことを知らされました。いのちの電話のことで。与えられている器を活かした新しい奉仕の業に上よりの大きな導きを感じました。

今日は聖霊降臨日、教会の誕生日といわれています。主イエス様が約束してくださいました。聖霊が弟子たちに降ったことよって、弟子たちが一つの共同体として、力を合わせることでできるようなったから、このように言われるのでしょうか。聖霊はプニウマ ハギオン、プニウマは風、息、霊魂などいろいろな意味を持っています。かつて桃山学院高校のチャレンジャーをしていた時、新しい8階建ての校舎の7階にあったチャレンジャーから校庭を見下ろしていた時、一陣の風が吹き、土煙が竜巻のように渦を巻いたのを見ました。風は目に見えませんが、しかし確実に一つの力を持っていて、わたしたちに作用してきます。古代ユダヤ人たちは、こんな

風に、神様の力を感じたのでしようか。

星野富弘という人がおられました。最近お亡くなりになったのですが、体育教師であつた彼は鉄棒から落ちて、頸椎損傷を負い、首から下が全く不自由になつたのですが、口に絵筆を咥え、絵と詩を描くようになりました。彼の最初の作品集が「風の旅」という本になりました。動けないからこそ 風を感じる 風に何かを感じる、動けないからこそ聖霊の力を感じる、神様の声を、力を、恵みを感じることができると彼は言います。

さて、わたしたちは聖霊を、神様の息吹を感じることができているでしょうか。創立130周年を迎えたこの大阪城南キリスト教会が聖霊の力に満たされて、神様の恵みの業を感じ、この地において賛美の声を上げることができましようにと祈ります。」

聖霊に満たされて、新たな一歩を踏み出し始めている喜びを分かち合えたひと時でした。主に感謝。

(大阪城南キリスト教会牧師)

プールの学院145周年記念礼拝

司祭 成岡 宏晃

去る6月2日、プールの学院清心館でささげられた創立145周年記念礼拝において、北海道教区笹森田鶴主教さまよりメッセージをいただきました。スクールモットーである「愛と奉仕」の精神を深く心に刻み、新たな一歩を踏み出しました。以下、メッセージを抜粋させていただきます。

「創立者であるメアリー・ジェーン・オクスラドなど一人の人の誠実な、心の奥からの望みこそが、そして一人の日々の選択や決断の積み重ねこそが歴史となつていくのです。歴史は、誰か偉い人が作つていくものではなく、一人ひとりの折々の決断、



選択、望み、あきらめない気持ちの積み重ねで織りなされていきます。そして、そのよな歴史は社会を変革していきます。

皆さんにとって、望むものとは何でしょうか。心の奥底から望んで、望んで、自分でも止めることのできないほどに溢れ出てくる思いは何でしょうか。それが神の御心であるならば、どんな逆境にあつても必ず実現します。もし違つても、神様はいろいろな方法でサインを出してくれます。ですからその望みを大事にしてください。神の愛とは、そのような望みを抱く一人ひとりのために発揮される力を与えます。神の愛が発揮される時を、神は待っておられるのです。だから、愛は忍耐強く、情け深く、妬まないので。暴力を受けても愛によつて忍耐しなさい、という意味とは全く反対のことです。無条件の忍耐強さは、神の愛と共鳴した時のみ実現されます。

オクスラド宣教師が今日の皆さんの姿をどんなに喜んでご覧になつていらっしゃるでしょうか。

このプールの学院の歴史の中に息づいている愛と奉仕の精神は、これまでもそうであつたように、今も、そして150年に向けても、皆さん一人ひとりの生活の中に見いだせる、愛と奉仕の実現に支えられています。皆さんお一人一人がこの社会の歴史の主体なのです。これからもこのプールの学院での日々の生活がこの日本の歴史を作り出していく主体が成長する場となりますように、心よりお祈り申し上げます。創立145周年の記念のお祝いのメッセージとさせていただきます。」

プールの学院に連なるすべての方々と創立145周年の喜びを分かち合えることを祈りつつ。
(プールの学院中学校・高等学校チャレンジャー)

大阪教区生涯学習委員会
キッズフェスティバル実行委員会主催

教会遠足

日時：2024年7月28日
場所：石橋聖トマス教会

立教学院創立150周年 記念礼拝・式典に参加して

司祭 小林 聡

5月11日(土) 学校法人立教学院の創立150周年記念礼拝及び式典が東京池袋の立教大

奉仕と学び、教え伝える道を歩まれたことに触れられました。

記念礼拝の奨励は創立者ウイリアムズ主教の母校である

命を心に刻むことが出来ました。また主教西原廉太学院

公 示

救主降生 2024年5月27日

日本聖公会大阪教区 教区会議長 主教 アンデレ 磯 晴久

日本聖公会第133(臨時)教区会を、下記の通り招集します。

記

日時 2024年7月21日(主日) 午後3時から午後5時 議場 日本聖公会大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)

なお上記教区会の書記を下記のように指名します 司祭 ヨハネ 古澤 秀利 司祭 フランシスコ 成岡 宏晃 司祭 アモス 金 頭 昇 以上

公 示

救主降生 2024年5月20日

日本聖公会大阪教区 教区会議長 主教 アンデレ 磯 晴久

下記のとおり、人事異動を発令します。

司祭 ウイルソン ウォーレン (退職) 6月1日付 司祭ヨハネ古澤秀利のもと聖ガブリエル教会第1主日、司祭ヤコブ義平雅夫のもと高槻聖マリヤ教会第3及び第5主日礼拝の協力を委嘱する。ただし、法規53条第2項に基づき、任期は1年とする。 教区英語礼拝の任を解く。

患者と家族のための滞在施設 『守口ぶどうのいえ』の紹介

司祭 ヤコブ 義平 雅夫

平素より、守口ぶどうのいえの活動にご支援をいただき、ありがとうございます。このような施設が大阪教区にあることを改めて教区の皆様にお伝えし、末永く心に留めて支えていただければと願

☆守口ぶどうのいえの役割 遠い場所にお住まいの方が、慣れない大阪の地で入院

し治療をしなければならなくなったら、付き添いの家族もまた、大阪までやってきて病院近くに泊まる場所を見つければなりません(とくにお子さんが入院するとなればなおさらです)。

その期間が週単位、月単位になると滞在費用は莫大なものになり、さらに車で来院する必要のある人にとってはパーキングを確保することも大変で、駐車料金も重く押し掛かります。

守口ぶどうのいえは、このような方々のために設立された「患者と家族のための滞在施設」です。患者が未成年の場合、家族は一泊1,000円(成人患者のご家族は一泊



2,000円、3週目からは一泊1,000円)で最長3か月まで利用できます。この料金設定が可能になっているのは、ひとえに皆様からの寄付やご支援によるものです。本当にありがたいことです。

☆利用者の様子

当施設では、おもに子どもが手術およびリハビリでの利用が多く、手術が終わり経過が落ち着けば、子どもは毎週末に仮退院してぶどうのいえに宿泊し、お母さんの作った晩ごはんを食べることができています。

長期滞在された利用者や教会の方々が一緒に散歩に出かけたりすることもありました。つい最近も、遠方からはじめて利用されたご家族から、『もう病院は行きたくない』と泣いていた息子(6歳)が、『ぶどうのいえには行く』と言っているのです、次回も一度母子入院にチャレンジすることにしました!と連絡をいただきました。自宅が遠方で通院できない患者さん自身が滞在されることもあります。「ここ(ぶどうのいえ)は、きれいな部屋から青い空を見上げられて、



本当にホッとします。教会もあってとても安心できます」と話してくださいました。

☆おわりに

本日に、いろんな状況にある方々がここを利用されています。私たちも、必要以上に関わらず、しかし必要なサポートができるよう教会やボランティアの方々の力を借りて日々運営しています。

守口ぶどうのいえは医療の専門施設ではなく、穏やかな日常の風が吹く「教会の施設」です。巡礼の旅人に一夜の宿を提供する中世の修道院のようでありたいと願っています。

「私たちの大阪教区には、こんな施設があんねん」と、守口ぶどうのいえのことを大切な誰かに伝えていただければ幸いです。

(守口ぶどうのいえ施設長・守口聖オーガステン教会牧師)

大阪教区の今後を考える懇談会と臨時教区会開催に向けて
みんなの思いを集めよう

司祭 小林 聡

これまでの教区会等での議主様のメッセージにもありますように、大阪教区は近隣の教区と新しい教区を作っていくという方向性を持っています。その動きの中で、二つの選択肢、つまり主教選挙を行ってその道を歩むのか、伝道教区を選択してその道を歩むのかを選ぶために、今懇談会が開かれています。

5月と6月に行われました懇談会には出来るだけ多くの方に集まって頂き、大阪教区が行う神様の福音宣教のために、伝道教区のことや主教選挙のこの理解を深め、各教会の方々が、教役者及び教区信徒代表議員の方と意思を分かち合い、各教会の思いを目的として開催されました。この懇談会で結論を出すとか、すべてが分かるということではなく、この懇談会の機会を用いて頂きながら、各教会での分かち合いがより充実し、7月の臨時教区会に臨むに際して、

教会の思いを教役者、信徒代表議員の方と分かち合って頂くために開催してきました。5月26日(日)に川口基督教会

で開催されました懇談会には、主教、教役者3人、信徒16人が参加され、「新しい教区を作ろう」と題されたパワーポイントを用い乍ら、すでに新しい教区を目指している4つの教区の事例に触れ、主教選挙を選んだ場合や伝道教区を選んだ場合の影響について説明がなされました。その後、質疑応答があり、残りの時間で、参加者全員から質問やご意見を頂くことが出来ました。全体で2時間の時間でしたが、それぞれに思いを

出し合えたのではないかと思います。最初のところで共有したことは、どの選択肢が正しいかということではなく、参加者それぞれが安心して思いを分かち合えること、そしてそれはとても楽しいことであり、教会の本来の姿がそこにはあるということでした。安心して分かち合えること、それ私たちが大切になりたいと思っています。5月の懇談会で改めて私が感じたことは、今後の方向性について、具体的なパートナー教区の存在が見えてこない、あるいはそのことについてどのくらいやり取りがなされているのかという不安があ

夏の黙想会

～み手の中で歩む私たち～

日時 : 2024年8月12日(月・休)
10時30分～16時30分
会場 : 大阪城南キリスト教会
(大阪市天王寺区東上町8-30)
Tel ; 06-6772-4152
講話 : 大岡左代子司祭(京都教区)
内容 : セッション① 黙想①
セッション② 黙想②
ティータイム
夕の礼拝



※ 予約は不要です。どなたでも自由にご参加ください
※ ご持参いただきたいもの: 聖書・祈禱書・筆記用具・昼食(飲み物含む)
※ 駐車場には限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。
お車でお越しの際は成岡宏晃司祭までご連絡いただければ、先着順でご案内いたします。(連絡先上記)



主催 大阪教区聖職養成委員会
委員長 司祭ジョイ千松清美

るということでした。このことについてかなり懇談会の中で話が出されたように思いました。磯主教様からは、かなり明確にパートナーと考える教区が挙げられました。ある意味、文字媒体の資料からだけでは補えないような思いや動きを対面式の懇談会では分かち合えたのかなと感じました。

また懇談会における教役者の参加についても皆で思いを深めました。ただ日曜の午後ということや、それぞれの教会においての働きもあり、今回教役者は3人でしたが、普段の教役者会をいつもの倍に増やし、月数回の集まりを持って、教区の今後について話し合っておりますことをお伝えさせて頂きます。今後は、6月29日(土)の連合男子会「祈りと証しの会」でもウイelson司祭のお話の後、教区の今後について大いに語る時を予定して下さっています。7月15日(月・祝)は、臨時教区会に集う教役者、信徒代議員が一日かけて、大いに分かち合う時としたいと思います。

出来るだけ各教会で、話し合いの時を思ってください、各教会の思いを代議員の方や教役者に託して頂き、7月21日(日)の臨時教区会の時を迎えたいと思います。

(大阪教区常置委員長)

礼拝・音楽委員会主催
教会歴と聖歌Ⅲ 『復活節の学び』

高島 幸二

4月6日(土)、川口基督教会において、内田望司祭のもと『復活節の学び』の時を持つことが来た。主のご復活の喜びに包まれた、学びの時であった。

まず降誕日で代表される固定祝日と復活日で代表される移動祝日の解説。その後、復活節について本場に詳しくご説明いただいた。復活節第2主日には「新生」、第3主日「主のいつくしみ」、第4主日「喜べ」、第5主日「歌え」、第6主日「祈れ」、そして第7主日は「主よ、聞きたまえ」と主題が与えられ、み言葉に触れ、深く解説していただいた。普段「イースターおめでとう」と口にはすれども深く意味も考えず過ぎていることが恥ずかしく思える。それぞれの



主日の解説の後に歌われる聖歌は、聞きなれたものであるにもかかわらず、新鮮なものとして心に響いた。

元日に起こった、能登半島の地震をはじめ、日本各地や台湾で起きている大きな地震。ウクライナとロシア、パレスチナ・ガザとイスラエルでの争いごとなど、この世は悲しみに満ち満ちている。しかし、主イエス・キリストのご復活を信じる私たちは、どんなに悲しく苦しいときがあっても必ず過ちに気づき悔い改め、そこから立ち上がれると信じていることが出来る。私たちはそのことをより多くの人たちに、まだイエス様の愛を知らない人々に伝えていかなければならない。

来た時よりも大きな希望と喜び、そして使命感をもって聖堂を後にした。

*参加人数27人。献金1万7,580円は能登半島地震支援のためお献げいたしました。感謝。

(大阪聖愛教会信徒)
礼拝・音楽委員会協力委員

【常置委員】会報告 3/22(臨時) 3/26(臨時)

3月17日臨時教区会後「かたり場(懇談会)」の振り返りをし、今後の方向性と日程を確認した。

4/11(定例) 4/7(定例)

I. 主教報告及び諸報告

- 人事について報告があった。
- 能登半島地震被災者支援のための献金160,761円を管区へ送金した。
- 台湾花蓮地震復興支援のため、緊急災害基金より10万円を台湾聖公会へ送金する予定。

- 高槻聖マリヤ教会より融資の希望があり、融資申請書の提出を待つことにした。
- 大阪聖アンデレ教会より1名の埋葬願いを受け付けた。
- 税務調査の結果と指導事項の対応について報告があった。

II. 協議事項と主教諮問

- 聖職養成委員会より聖職候補生および神学生の夏休み実習内容が提示され、承認した。
- 京都教区能登半島地震支援ボランティア募集に対し、申込者の交通費および保険料は教区が負担することとした。

- 主教選挙および伝道教区に

ついでの「かたり場(懇談会)」および「臨時教区会」の日程・会場を決定した。

4/25(臨時) 4/8(臨時)

- 高槻聖マリヤ教会より借入金申請があり、承認した。
- 主教選挙および伝道教区に ついての「かたり場(懇談会)」の当日担当者を決定し、更新したパワーポイント資料の確認をした。

5/17(定例) 5/9(定例)

I. 主教報告及び諸報告

- 磯主教の手術後の容態の報告があった。
- 人事について報告があった。
- 2教会に牧会補助金の送金をした報告があった。
- 9月23日教区礼拝の式典長に成岡宏晃司祭、副式典長に金山将司司祭・柳時京司祭が決定した。
- 宮本憲さんに貸与した神学生奨学金の返済請求書の内容を確認した。
- 聖贖主教会宗教法人格を大阪教区へ一元する議案を日本聖公会総会に提出した。
- 事業委員会より進捗報告があった。

II. 協議事項と主教諮問

- 10月21日、24日に日韓聖公会40周年記念行事が済州島

大阪教区関係教役者レクイエム

毎月第2水曜日 川口基督教会
7月10日(水) 10:30~



説教者：木村 幸夫 司祭

- 1日 司祭 ウォルター・J・エドモンズ (1889英)
- 伝道師 野村 志津 (1997)
- 5日 宣教師 エリザベス・メータ・ソフィー・ヒューボルト (1934英)
- 9日 伝道師 フィベ 山上 操 (2014)
- 12日 主教 パウロ 久保淵 豊彦 (2006)
- 14日 主教 アーサー・ウイリアム・プール (1885英)
- 15日 宣教師 オクタビア・ジュリアス (1942英)
- 20日 宣教師 エミリー・サンドル・フォックス (1942英)
- 司祭 ヨハネ 木川田 正毅 (1990)
- 21日 司祭 堀江 議作 (1928)
- 執事 永田 保治郎 (1941)
- 22日 司祭 イサク 木川田 満 (2018)
- 23日 伝道師 中村 貞子 (1953)
- 宣教師 エセル・アグネス・カーライル (1957英)
- 24日 司祭 西田 弥吉 (1945)
- 宣教師 ジェーン・アン・スタベリー (1963英)
- 25日 司祭 サムエル 堀江 光児 (1990)
- 28日 主教 マルコ 小池 俊男 (2011)
- 29日 宣教師 ロレッタ・レオナルド・シヨウ (1940 カナダ)

8月14日(水) 10:30~

説教者：成岡 宏晃 司祭

- 5日 主教 エドワード・ビカステス (1897英)
- 8日 主教 ヘンリー・セントジョージ・タッカー (1959米)
- 9日 宣教師 アグネス・S・ウィリアムス (1970英)
- 10日 司祭 ヨハネ 桜井 猶次郎 (1945)
- 主教 ペテロ 藤本 寿作 (1969)
- 11日 宣教師 シルビア・ルイス・ケンドール・ブッシュ (1966英)
- 18日 司祭 関 翔 (1953)
- 24日 宣教師 キャサリン・アリス・サルヴァイン・トリストラム (1948英)
- 30日 伝道師 ルツ 中村 光尾 (1978)

常置委員会報告(続き)

にて開催され、教区代表者1名の選出は宣教局にて人選を依頼する。

・教区歴史編集委員会の委員長は韓相敦司祭の定年退職にあたり、金山将司司祭とする。

・台湾花蓮地震復興支援のための主日信施金の献金日は、6月16日とする。

【局長】【会議】【報告】
4/24回 第4回

【宣教局】
*新ビジョンチームのメンバー候補を主教に選定いただくよう要請。

*5月7日(火) 宣教局会議 予定

【総務局】
*高槻聖マリア教会牧師館改修費用融資について財務委員会承認した。常置委員会へ上程する。

*神学生養成資金から教区神学生2名分の授業料を支払った。

【総務局】
*教区事務所に対して4月8、9日の2日間、源泉所得税の税務調査が入った。全教会の会計帳簿を提出。牧師館の水道光熱費負担が

【宣教局】
*教区英語礼拝担当司祭がヒュウム司祭に交代した。
*9月23日の教区礼拝について

【協議事項】
給与であると指摘され徴収対象とされた。

*宣教局からキッズフェスティバルに対しての仮払申請があり承認した。

*教区の今後を話し合う懇談会について協議した。

【協議事項】
5/23回 第5回

【協議事項】
*4月実施の税務調査で指摘された牧師館の水道光熱費に対する源泉税徴収方法を取り決めた。

【総務局】
*3月に退職された教役者2名に退職金を支払った。

*能登半島地震への指定献金を管区に送金した。

【協議事項】
*聖公会生野センターの理事を変更した。

【協議事項】
*教役者が夏期休暇をまとめて取るようアピールする。

【協議事項】
*3月に退職された教役者2名に退職金を支払った。

【協議事項】
*教区礼拝の持ち方について協議した。

*事業委員会での検討内容について確認した。

【協議事項】
*聖公会生野センターの理事を変更した。

【協議事項】
*教役者が夏期休暇をまとめて取るようアピールする。

【協議事項】
*3月に退職された教役者2名に退職金を支払った。

逝去者

西宮聖ペテロ教会
エリザベツ 外池 美津子 (4月23日・92歳)

石橋聖トマス教会
マリア 小林 静 (5月23日・89歳)

ヨハネ 堀江 裕一 (6月2日・87歳)

大阪聖ヨハネ教会
ベテロ 石原 勝郎 (5月27日・80歳)

魂の平安をお祈りします

○518号 2頁

お詫びと訂正

(誤) スザンナ加納佳世子

(正) エステル加納佳世子

洗礼名が間違っておりまし

た。

お詫びして、訂正いたします。